

関連項目：教育活動プラン①

良好な人間関係を築き自己有用感を高める活動

目的

本校の児童は、社会性を問う「ソーシャルスキルに関する実態調査」では、全体としてコミュニケーションに関するスキルが身につけにくい傾向にありました。そこで、認め合い、支え合う集団づくりを通して、人間関係を築いたり、ともに活動したりするためのスキルを身につけ、友達とのことばを通じたかかわり合いの中から自己有用感を高めて自信をつけるために、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキル学習を実施することにしました。

内容

● 人間関係づくりのスキルを学ぶソーシャルスキル学習

友達とうまくかかわり合いながら折り合いをつけて、自分も相手も気持ちよく次の行動ができるように、学級活動の時間に、スキル獲得のためにソーシャルスキル学習を実践しています。年間5時間程度の計画で行っており、学年の実態に応じて同じようなスキルの内容を繰り返したり、必要なスキルを取り入れたりしながら、生活のそれぞれの場面で生かされるように実践しています。

1学期は主にコミュニケーションのもととなる「聴き方」と「話し方」についての実践を行いました。児童は、話を聴いてもらう心地よさを実感するとともに、話をするときには話す方も聴く方も気持ち良く、仲良くなれる話し方を見つけていきました。

● 自己理解、他者理解を深める構成的グループエンカウンター

児童が友達と協力することの大切さや喜びを味わい、仲間意識を培いながら、学校生活を楽しむことができることをねらいとしています。遊びを中心に日常生活を見直したり、異学年の友達と交流したりして、友達とのかかわり方を学ぶ中で、よりよい自己実現ができるよう取り組んでいます。朝の活動時には児童会が中心となって全校生で、学級活動の時間には学年ごとに行っています。その際に、スクールカウンセラーを招き、活動の様子を参観後、感想やアドバイスをいただき、次の活動に生かしています。

当初は、恥ずかしさからあまり話しかけられなかった児童が、エンカウンターを繰り返すうちに、進んで話しかけることができるようになってきました。また、相手の目の高さに合わせて話をする児童も増えてきました。

成果

- 全校生や学級での構成的グループエンカウンターを実践しました。終末のシェアリングでは、児童はゲームを通して感じたことや気づいたことを自分のことばで表現することができるようになりました。教師は、その気づきを全体で分かち合うために、一人一人の考え方や感じ方に違いがあることや、みんなで協力して取り組むことの楽しさに気づかせるような言葉かけを行い、自己理解や他者理解を深めることに努めました。
- ソーシャルスキル学習や色別縦割り班活動などに参加することで、児童は人間関係を広げたり、深めたりしながら、自己有用感を高めるとともに、ともに輝くことのよさを体感することができました。
- 「自尊感情5領域テスト」では、課題となっていた学力的領域・社会的領域において、それぞれ約6%の伸びがみられました。その理由として、学習の中で自分の目標に向かって頑張っていることを実感できたこと、よさを認め合ったり、支え合ったりする活動の中で友達とのかかわり合いの心地よさを味わうことで社会性が向上したことなどが考えられ、全体として自尊感情が高まってきました。